



雨の湖上操艇熱く SAILおおつ

ヨットレース「第15回SAILおおつ」(京都新聞社主催)が25日、大津市柳が崎沖の琵琶湖で開かれた。雨がぱらつき、風がほとんどない難しい気象条件の中、セーラーたちが巧みに帆とかじを操り、湖上で熱戦を繰り広げた。(21面に関連記事)

大会は、1973年に始まった「ピワコ・カインド・レカッタ」を継承し、大津市制100周年を記念して98年から開催している。さまざまな種類のヨットが参加できるのが特徴で、今年は滋賀県内や京阪神から75艇89人が参加した。

レースは沖合3カ所のブイを回る約6キロのコースで、一般と小中学生対象のオブチミスト(OP)に分かれて実施。立ち並んだ白い帆が、湖面を滑るように快走した。

一般の部は愛知県一宮市の石川光輝さん(44)と兵庫県尼崎市の泉香月さん(39)のペア、OPの部は守山小6年の上西理久哉君(12)がそれぞれ優勝した。(森山敦子)



ポイントを競り合いながらファイ(右端)をターンする



オブチミストの部で一齐にスタートする参加艇



ハイタッチでゴールを喜ぶ参加者

世代超え帆走

ヨット愛好家らが琵琶湖に集うヨットレース大会「第15回SAILOおつ」(京都新聞社主催、琵琶湖ヨット倶楽部、京都ヨットクラブ、湖翔ヨット倶楽部主管)。艇種を問わない市民レースとして定着、琵琶湖の夏の終わりの風物詩となっている。小学生から80代まで幅広い世代が腕を競った。

今年は朝から風がほとんどなく、スタートが予定の午前11時から午後1時半ごろまですれ込んだ。弱い風に苦戦しながらも、参加者たちは日ごろの練習の成果を発揮してヨットを操り、レースを存分に楽しんだ。(森山敦子)

SAILおおつ



ゴールに向けて疾走する小学生のヨット大津市潮が輪押しいすれも撮影底己直史